

しらかわ

議会だより

2019年2月1日
No.
189

第4回定例会

条例改正・補正予算など6議案を可決



「議会だより」の表紙をあなたの写真で飾りませんか（お問い合わせ）白川町議会事務局

6つの議案を審議、可決 条例の改正・補正予算など

白川町議会第4回定例会を、昨年12月13日と14日の2日間にわたって開きました。今定例会では、6人の議員が一般質問を行い、行政の課題等について質問したほか、平成30年度補正予算や条例の改正など6つの議案を審議し、いずれも議員全員の賛成により原案のとおり可決しました。

条例の改正

▼白川町常勤の特別職職員の給与に関する条例、白川町議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正

人事院勧告の内容に準じ、特別職の職員及び議会議員の期末手当について、所要の改正をする。

■改正内容

期末手当年間支給率を、0.05月増やし、4.45月とする。

▼白川町職員の給与に

正 関する条例の一部を改正

人事院勧告の内容に準じ、白川町職員の給与について、所要の改正をする。

■改正内容

給料について、平均0.28%（777円）、宿日直手当について200円増額する。

期末・勤勉手当について、0.05月増やし、4.45月とする。

▼白川射撃場の設置及び管理に関する条例の一部を改正

資材価格の上昇や今後の消費税率の引き上げに伴い、白川射撃場の利用料金を見直し、上限金額を設定するために、所要の改正をする。

選挙管理委員及び補充員の選挙

任期満了に伴う選挙管理委員及び補充員の選挙を行い、次の方が当選された。

▼選挙管理委員

安江正宏(白山)
安江政利(和泉)
安江順一(上佐見)
中島たい子(三川)

▼補充員

藤井敬之(黒川)
藤井敬子(黒川)
中島綾子(下佐見)
河合なおみ(三川)

住宅取得支援等を追加 一般会計補正予算

一般会計補正予算

今回の一般会計補正予算では、移住定住対策の住宅取得支援や農

林業の振興、道路整備

などに必要な予算を追

加したほか、不要額の

減額や職員人件費の科

目間調整を行い、60

0万円を追加し、予算

総額は63億9200万

円になりました。ま

た、国民健康保険特別

会計は、高額療養費等

に1500万円を追加

し、総額10億4000

万円に、簡易水道特別

会計は、施設の維持管

理に5000万円を追加

し、総額7億4200

万円になりました。補

正予算の主なものと質

疑の内容は次のとおり

です。

追加された主なもの

・住宅取得等支援事業
補助金 738万円

・ふるさと応援寄付金

活用事業 115万円

・災害り災見舞金 196万円

・農業施設看板購入費 200万円

・圃場整備測量設計委
託料 365万円

・道路設計委託料 850万円

・県営事業負担金 600万円

活用事業

115万円

災害り災見舞金

196万円

農業施設看板購入費

200万円

圃場整備測量設計委

託料 365万円

道路設計委託料

850万円

県営事業負担金

600万円

白川北小学校建物診

断委託料

220万円

減額された主なもの

職員人件費

1505万円

庁舎建設関係委託料

439万円

地域おこし協力隊費

514万円

みのかも定住自立圏

共生ビジョン事業

290万円

道路維持修繕工事費

850万円

主な質疑

問 ふるさと応援寄付金

活用事業の内容はどの
ようか。

答 計画した事業を実施

する費用の寄付を募つ
たもので、ソフトボー

ル町技制定40周年記念
事業と里山メルヘン化

事業の2つである。

問 り災見舞金の交付基

準はどのようか。

答 7月の豪雨災害で岐

阜県に災害救助法が適

用されたことにより、

住家で半壊と床上浸水

した4件に対して、義

援金が給付されるもの

である。

問 地域おこし協力隊は

どのような仕事内容で

募集しているのか。

答 白川町に興味を持

ち、活躍したい人を受

け入れたい。移住交流

サポートセンターの運

営や自分のやりたいこ

とを提案して活動して

いただければと考えて

いる。

一般質問

まちの課題を問う

6人の議員が登壇



▲改築が検討されている白川中学校

問 庁舎移転と中学校改築について



安江孝弘 議員

問 新庁舎については、移転先の第一候補を白川中学校とされ、中学校の移転改築も検討されているが、その進捗状況はどのようなか。中学校の移転先について、住宅団地の造成も含めて、大野台（白川高校跡地）を検討する考えはないか。

町長

答 新庁舎の整備については、白中の老朽化対策や学校再編問題により、当初の計画と異なってきたり、中学校の改築に応じた庁舎移転候補地の検討を進めているところである。

中学校を移転する場合はその跡地に新庁舎を建設することとなり、他の公共施設と合わせて一体的に整備することができ。中学校を現在地で改築する場合は新庁舎については、町民の利便性を低下させることなく、防災拠点としての機能を發揮できる場所として、町民会館と機能を分散する庁舎整備方法なども検討していく。

白川中学校の移転については、教育委員会において「小中学校再編検討委員会」を発足し、将来的な小中学校の再編と合わせて、平成31年9月までに方向付けするよう検討しているところである。提案のあった白川高校跡地については、建物は老朽化が著しく、今のま

ま使用できる状況にない。住宅団地の造成についても、インフラ整備に相当な経費が必要になると思われる。

今後は、白川中学校改築の目的がたつた段階で、庁舎建設の具体的な計画を立てることとなり、今のところは考えられる想定の中で、あらゆる検討を進めていきたい。

問 学校統廃合施策の進め方について



渡邊昌俊 議員

問 白川小と白川北小の統合について、保護者と地域住民に対する説明会が行われたが、参加者が非常に少なかった。学校がなくなる地域では、行政の進め方に疑問を抱かれる人も多数おられる。今後、他の学校統合を行うためにも、地域の

皆様に理解と協力を取り付けるため、丁寧な説明が必要と思うがどのように考えるか。

教育課長

答 白川小と白川北小の統合については、10月に保護者、11月に地域の皆さんへの説明会を行った。保護者説明会では、白川小と白川保育園で27名、白川北小と白北保育園で24名が参加された。地域説明会では白川地区が13名、白北地区が9名であり、非常に少ない結果となった。

説明会では、統合後の校歌や服装、通学方法、学習内容、PTA活動などについて、統合を前提とした質問のほか、統合の方針を決めるまでの経緯や町全体の学校再編に対する質問をはじめ、多くの意見や質問をいただいた。今後は、これらに対する考え方を整理した上で、第2回の地域説明会を自治協議会ごとに開催し、できるだけ多くの方に説明し、意見を伺っていきたいと考えている。

問 森林環境税の使途について



梅田みつよ 議員

問 新しく森林環境税が導入され、平成31年度から譲与税が交付されることになっている。本町では、この交付金をどこに焦点を当てどのように活用していく計画か。

農林課長

答 森林環境税は、森林整備による地球温暖化防止、国土保全、水源涵養、快適な生活環境の創出などにつながる森林の適切な管理を行うことを目的として、国民が等しく負担する税である。税の徴収は平成36年度からであるが、譲与税は平成31年度から各自治体に交付されることとなる。また、市町村が森林所有者から経営管理の委託を受け、森林の管理を行うことができることを定めた森林

経営管理法が、平成31年4月に施行されることとなっており、森林環境税の使途は、市町村が経営管理する森林整備等の財源とすることとされている。

しかしながら、本町では境界が未確定な森林が多いことや、林業従事者が少ないことなどから、森林経営管理法に沿った森林整備が難しい状況である。このため、①境界の明確化と所有者の意向調査、②林業従事者の確保と育成、③森林整備に必要な路網の整備など、森林整備を推進するための条件整備を中心に事業を実施する予定である。また、将来的に条件整備が整った森林整備等を行うための基金積立て、林業や木材活用に関する普及活動の実施にも充当していきたい。

問 長寿の町「白川町」における今後の対策について

問 本町は全国的にみても長寿の町だと思う。本町の長寿をどのように分析して

いるか。高齢者が増加する中で、高齢者福祉に対応する包括支援センターの体制強化を図るべきではないか。また、公共施設のユニバーサルデザイン化をもっと進めるべきではないか。

保健福祉課長

答 本町の百歳以上の人口は現在13名、今後3月までに百歳を迎える方が8名あり、長寿の町と言っても過言ではない。長寿の要因としては、以前のアンケートで、同居家族が多いことや十分な睡眠をとること、3食きちんと食べること、適度に体を動かすことなどが挙げられている。また、健診の受診率が高く、健康意識が高いことも要因であると思う。一方で高齢者世帯が増えていることや、認知症の高齢者の割合が増えていることが、課題であると感じている。

包括支援センターは、3人の職員で、月に約1000人の要支援者対応と約200件の相談・訪問業務を行っており、高齢者のニーズを十分満たしているとは言

い難い状況である。委託先では現在、職員の増員を計画し職員募集を行っており、高齢者支援の充実が図られると思う。また、保健福祉課としても、高齢者健康づくり事業と併せて高齢者支援の強化に心がけていきたい。

建築物のユニバーサルデザインとは、「すべての人が利用しやすいように設計・建築する」という考え方である。福祉分野では定着した考え方となっているが、公共施設すべてにおいて、専門家の意見を取り入れるなど、設計段階からユニバーサルデザインとするよう対応していきたい。

問 自殺対策について

問 本町は県内でも自殺率の高い町として危機感を感じている。自殺対策の状況と自殺対策計画についてどのようなか。また、ゲートキーパーとなり得る方々に対する傾聴研修を積極的に行うべきではないか。

保健福祉課長

答 本町は全国や岐阜県の平均と比較して、自殺率が高い傾向にある。その対策として、平成23年から傾聴ボランティア講座を開催し、その受講者により、高齢者の孤立予防を目的とした「みみずくの会」が発足した。会員による積極的な活動が行われているが、町内全体のニーズを満たすことはできず、より多くの方に傾聴について学んでいたく必要性を感じており、様々な団体の集まりの場などで、その機会を設けていきたい。

現在、自殺対策計画の策定を進めているところである。その中で、法務局や警察、人権擁護委員、民生委員、学校など関係機関により「自殺対策連絡協議会」を組織し、自殺対策を包括的に取り組むこととし、「気づき」「つなげる」ことを大切に、計画の策定と対策の実施を行っていきたい。



▲特産品白川茶の「手もみ体験学習」

問 子どもたちの豊かな心を育む教育について



藤井宏之 議員

問 10月に就任された鈴木新教育長に、その抱負を伺う。①豊かな心を育む教育について、②少人数教育の推進と学校統合について、以上2点についてどのようなように考えるか。

教育長

答 私は教育長就任にあたり、様々な場で「体験を重視した教育行政を志している」と述べている。白川町の自然、文化、歴史、人々に触れ、その素晴らしさや面白さを感じたり、知的好奇心を高めたりしながら、町民が明るく元氣よく暮らせるような教育行政を推進したいと思っている。

保育園や学校で行われる体験活動では、それによって子どもがどう感じ、何を考えたかを把握し、それを学校便りやホームページなどで保護者にも伝え、子どもの成長や発達の状況を共有することが大切である。

少人数教育は、教師の目が行き届きやすく、子どもにとっては質問がしやすく集中できる面があり、教科指導で理解や定着を図るといふ面では効果がある。一方、子どもたちが多様な考え方や個性の違いを乗り越えて相互理解に至るといふ経験は難しくなってくる。成長や発達に伴って大きな

集団で生活・学習することが可能ならば、その方が良いのではないかとと思う。学校の再編については、可能な限り地域に学校を残したい。しかし、少子化によって生じる課題を解決するためには統合もやむを得ない。将来的には小中各1校、または1小中一貫校という視点も視野に入れて検討するという基本方針を持っている。そこには子どもの成長と発達という視点も踏まえていることをご理解いただきたい。

問 白川町住生活総合計画と若者定住住宅について

「白川町住生活総合計画」策定の進捗状況はどのようなか。また、町による空き家のリフォームや建て替え、一定期間家賃を払った後、住宅や土地の無償譲渡などの、移住・定住促進策についてどう考えるか。

世帯を対象としたアンケート調査を実施し、その集計分析結果をもとに検討中であり、今年度中に策定する予定である。この計画は、「町営住宅長寿命化計画」と「空き家等対策計画」も含めた総合的な住宅施策の実施計画である。「住んでよかったと思える町づくり」を基本理念とし、①子育て世帯、高齢世帯の満足度向上、②空き家対策の推進、③若者の移住・定住促進、④安心して暮らせる町営住宅の供給、⑤コンパクトな町づくりの推進の5つの目標を設定している。

空き家については、移住交流サポートセンターと連携して取得又は借り上げ、必要なリフォームを行い住宅としての活用を推進していきたい。また、入居後一定期間経過後に無償譲渡する住宅については、家賃総額と建築費等のバランスや、財源の確保等多くの課題があるので、今後関係機関と協議し具体的な制度設計を検討していきたい。

問 町長が掲げる「宝物探し」について



佐伯好典 議員

問 町長が就任されたときから掲げられている「宝物探し」について、その真意が十分理解されていないのではないかと。「宝物探し」の目的、成果、今後の展開はどのようなか。

町長

答 地域づくりの大前提は、自身が住む地域をどれだけ愛しているか、そしてどう受け継がれているかだと考えている。町長に就任した当時、町民に故郷を再認識していただきたい、それが無いと地域づくりはできないかと思う、宝物探しを提唱した。

宝物探しは、良いところ探しを提唱したものである。まず家庭から、そして職場、地域において良いところを探していただきたいと



▲町の宝物を活かす「魅力発見塾」

ということが、私の真の思いである。そのような中、地域やグループ、行政等で様々な事業を手がけていただいております、それが故郷を自慢するようになるものになればありがたいと思っています。

国道41号の飛水峡上麻生防災工事が採択された過程で、人口減少が進む地域で、住民がどのように頑張っているかが重要視され、地歌舞伎の保存や白川茶の海外販路拡大などが評価されたという経緯があり、これも宝物探しの一つの成果ではないかと思う。

問 本町では依然として少子化が続いている。少子化対策の視点として、子育てに対する経済的支援、相談や預けることができる人や場を増やすこと、夫婦が子育ての役割や価値観を同じように持つことなどが挙げられている。これらの視点での町の取組みを強化する必要があるのでないか。

答 子育て支援専門監

白川町は、妊婦健診費用の助成、出産祝金・出産育児給付金の交付、各種医療費助成、子育て応援ゴミ



服部圭子 議員

問 少子化対策、子育て支援の強化について

いずれにしても、町民の皆さんが、白川町を愛し、住んでよかった、生まれてよかったという認識を持っていただくことが、一番の目的である。

袋支給、3歳児以上の保育料無料化など、様々な手厚い経済的支援を他市町村に先駆けて実施しており、提案のあった未満児の保育料軽減や出産祝金の増額は、今のところ考えていない。

子育て相談機関としては、役場の子育て支援係や保健センター、子育て支援センター、保育園などがあり、それぞれ連携を取り合い、妊娠期から子ども成長段階でいつでも相談にのれる体制を整えている。子どもの預かりについては、未満児保育の希望者は全て受け入れている。放課後学童保育については、光の子保育園と白川保育園で行っているが、保育士やコミマなど保育にあたる職員の確保に苦労している。保育士不足は、全国的な課題であり、保育士の労働環境を保証しながら、未満児保育等に対応しなければならぬ現状をご理解いただきたい。

子育て相談機関として、役場の子育て支援係や保健センター、子育て支援センター、保育園などがあり、それぞれ連携を取り合い、妊娠期から子どもの成長段階でいつでも相談にのれる体制を整えている。子どもの預かりについては、未満児保育の希望者は全て受け入れている。放課後学童保育については、光の子保育園と白川保育園で行っているが、保育士やコミマなど保育にあたる職員の確保に苦労している。保育士不足は、全国的な課題であり、保育士の労働環境を保証しながら、未満児保育等に対応しなければならぬ現状をご理解いただきたい。

夫婦が子育ての役割や価値観を共有することについて

では、母子手帳配布時に父子手帳を配布したり、夫婦で妊婦教室に参加していたり、だき妊婦体験や赤ちゃんの沐浴体験、助産婦との座談会などを行い、夫に妊婦のことを理解していただく機会を設けている。

問 「非核平和のまち」宣言について

白川町は、平成27年9月に「非核平和のまち」を宣言している。この宣言の経緯や町長の思い、平和活動の内容はどのようなか。また、このほど黒川分村遺族会により「乙女の碑」の碑文が設置されたが、平和を願うこの事業に対し、どのような思いか。

「非核平和のまち」宣言は、「日本非核宣言自治体協議会」からの依頼を受けて、戦後70年の節目の年である平成27年9月に宣言したものである。この協議会は、昭和59年に非核平和について自治体間の協力体制を構築することを目的に広島県府中町で設立されたものであり、全国で341団体が加入している。非核平和に対する町の取り組みは、次代を担う世代への伝承や意識啓発が重要であると考えており、青年の宮古島派遣の折に、沖縄本島で平和学習を取り入れたり、白川中学校の修学旅行で長崎の被爆に関する学習を行ったりしている。また、町主催ではないが、各地区の慰霊祭や終戦記念日の正午に平和祈念などが行われている。

黒川分村遺族会による碑文の設置については、関係者の切実なご苦労があったものと推察する。また戦争当時、行政が先頭に立ち開拓団を送り出したことから、行政を預かる者として責任を感じている。

戦争での一番の被害者は、女性と子どもだと思ふ。子どもたちには、戦争を否定するだけでなく、どうしたら防げるかを勉強してほしいと訴えているところである。

黒川分村遺族会による碑文の設置については、関係者の切実なご苦労があったものと推察する。また戦争当時、行政が先頭に立ち開拓団を送り出したことから、行政を預かる者として責任を感じている。

有害鳥獣処理施設を視察

町議会行政視察レポート 静岡県伊豆市

町議会では、昨年11月30日に、静岡県伊豆市の「有害鳥獣処理施設」を視察しました。

白川町でも深刻な課題となっている有害鳥獣対策について、伊豆市の取り組みや施設は大変参考になるものでした。ここでは、その視察内容の一部を紹介いたします。



▲施設見学をし処理工程の説明を受ける

捕獲したイノシシやシカなど有害鳥獣の処理については、以前から課題となっており、昨年の加茂東部3町村研修会でも勉強会が持たれて、早期の導入が望まれています。

今回視察した施設は、焼却施設と比較して、微生物による分解によって処理を行うため、施設の規模も小さく、安価であるという利点があります。一方で、微生物の発酵という今までに実績がない処理方法のため、処理能力、コスト、臭

いや水質汚染等の懸念もあり、実際の稼働状況を知るために、今回議会として視察・研究することとなりました。

この施設は、ジビエの食肉加工施設に併設して整備され（建設費用約4050万円、国庫補助55%、県補助15%、残りの30%が市費）、平成30年3月に試験稼働、同年5月から本格稼働を始め、10月25日まで約1万8000kgを処理しています。

先にも触れたように、微生物による分解によって処理をする方法で行なっており、1日の処理能力は200kg、月々金の週5日稼働で、食肉として利用できなかったものを処理しています。施設のランニングコス

トは、月に電気代約10万円水道代1万円ということでした。

視察では、当日の朝搬入されたシカ（雌の成体）を、クレーンを使って処理槽に投入するところを見学することができました。心配していた匂いについては、処理槽の蓋が開いた状態でその場にいるときつい臭いがしますが、腐敗臭ではなく

獣臭のような臭いであり、吐き気を催すようなものはありませんでした。また、実際は処理層の蓋を閉めた状態で行うため、周辺への臭いによる公害はほぼ心配がないと感じました。実際、100mほど離れたところに中学校があります。臭いなどの苦情は無いようです。

視察後には、議員全員で感想や意見を交換しました。その結果、導入に向けた前向に検討していきたいが、伊豆市とは狩猟形態（鹿が9割）害獣の割合（鹿

が9割）が異なるため、鉛が処理槽に及ぼす影響や、獣の種類による処理能力の違いの調査を、また、長期での微生物の環境への汚染の懸念などを、引き続き調査していく必要があるとの意見がまとめられました。

処理施設は害獣駆除の負担軽減のためになくてはならないものだと感じています。今後も導入に向け調査、検討を行ってまいりますので、皆様の理解とご協力をお願い致します。

【レポート 佐伯好典】





地域の活力の牽引力として！

白川町商工会青年部
部長 額額友輝（黒川）

私たち商工会青年部は、白川、蘇原、黒川、佐見の4支部で合わせて60人の部員で活動しています。職業も様々で、部員が集まるのも大変な状況ですが、可茂地区では部員数も一番多く、活動内容も充実していると思っております。

今年度の岐阜県商工会青年部主催発表大会では、部員の加藤孝典君が中濃地区代表として出場し、最優秀賞を受賞するなど目覚ましい活躍をしています。

れています。

青年部の活動は、地域の活力を生み出す牽引力だと思っただけでなく、それが支えてくれるのが商工会です。しかしながら、人口減少や生活環境の変化から、会員数も減少傾向にあり、事業継承や起業が進むことを願っています。

町内にも移住者が増え、六次産業化を目指して頑張っている若者も増えていきます。定住しようとする若者をしっかりと受け入れる寛容な雰囲気があれば、その地域には友だちも寄ってきて、若者の

集まる町に変わっていくと思えます。

また、大型店の進出に続き、地元の小売店の存在が厳しくなっています。超高齢化社会では、地域の小売店がなくなり、買い物弱者が増えてくることも心配されます。小売店の存続に向けて「買い物は町内で！」にご協力をお願いします。

平成の次の新しい時代に向けて、私たちの子どもたちも家業を継いでくれるような、夢と希望を、持てる社会になるよう、努力していきたいと思えます。

表紙は語る

表紙の写真は「赤河元旦ゆっくりマラソン」の様子



1月1日、新春を飾る恒例の「赤河元旦ゆっくりマラソン」が開かれました。今年で22回目となる大会には、保育園児から60歳代まで140人の老若男女が参加。赤河地内の4kmのコースで、大会名どおりゆっくりと楽しみながら心地よい汗をかきました。走り終わった後は、実行委員会によって豚汁がふるまわれ、歓談のひとつきを過ごしました。



▲青年部が主体となって開かれる「ふるさとまつり」



▲子どもたちに会社経営を体験させる「ベンチャーキッズ」事業

あとがき

▼新しい年を迎えお慶び申し上げます。今年は何かにつけて「平成最後」という言葉がメディアを賑わしています。3ヶ月後には天皇退位・即位もあり、記念硬貨も発行されます。新しい年に新しい元号と時代の移り変わりを感ずると同時に、期待に胸膨らむ思いです。

▼白川町議会では、テレビ中継をしている町議会一般質問の質問や答弁が長くてわかりにくいという声を受け、今年から一問一答方式とすることにしています。わかりやすい質問、答弁に努めたいと思いますので、ぜひテレビ中継をご覧ください。

▼人口減少が進む中、少しずつ田園回帰の波が感じられます。素晴らしい白川町の歴史や伝統を守りつつ、この時代の変化に柔軟に対応できるまちにしていかなければなりません。次世代へ繋ぐ白川町議会を目指していきます。

【M・U】

この広報誌には再生紙を使っています。